

小山市立下生井小学校

児童数	学級数	内容区分（あてはまるものすべてに○を記入）
29	6	(○) 児童生徒の体力向上に向けてWEBサイト「とちぎっ子体力雷ジグひろば」を使った取組 (○) 新体力テストの調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善の取組 (○) 体力づくりに関する家庭との連携 (○) 教職員の資質向上のための取組

1 ねらい

- ・授業体育や行間活動の計画的な実施を図り、好ましい運動習慣を身に付ける。

2 実施内容

① 休み時間を活用したサーキット月間

- ・業間休みと昼休みの5分間ずつを活用し、新体力テストに向けて運動習慣を身に付ける活動をした。種目は、ボール投げ・タイヤ引き・立ち幅跳び・登り棒・50m走で、昨年度の新体力テストの結果をもとに、各自が伸ばしたい力に合う種目を選び取り組んだ。

② 体力向上エキスパートティーチャーの活用

- ・体力向上エキスパートティーチャーを講師に、5月と10月に体力向上授業を実施した。実施に当たっては、事前に打ち合わせを行い昨年度の新体力テストの結果から、1～3年生はボール投げ、4～6年生は俊敏性を鍛える運動について体の使い方の視点から指導を受けた。また、10月には、走力を高める運動について指導を受けた。2つの体力向上授業から、ボールを投げる際の体の使い方が滑らかになったことや、走る際の足の運びに改善が見られた。

③ 教員の授業向上を目指した環境整備

- ・教科書がない教科だからこそ、体育の授業作りに悩む教員も多い。そこで、授業作りのヒントとなるよう、文部科学省から出されている「体育まるわかりハンドブック」を職員室内に置き、誰でもいつでも教材研究できる環境整備を行った。
- ・共有フォルダ内に、体育動画を格納し、誰でも見られる環境整備を行った。

④ 「とちぎっ子体力雷ジグひろば」を活用

- ・児童数が少なく、競争意識を持ちにくい環境である。だからこそ、県内の同学年と競え合える「チャレンジランキングゾーン」を活用することで体力作りへの意欲向上へとつながっている。

⑤ 体力作りに関する保護者の理解

- ・普段の授業や、行事等で行ったことを学校便りや学年便りで保護者等に知らせることで、家庭の体力作りへの関心を高めることにつながっている。

3 主な成果

- ・新体力テスト A+B ランク児童が59.2%に微増した。(R5年度は57%)
- ・教職員の体育授業への意識の向上が見られた。

4 資料

○休み時間を活用したサーキット月間



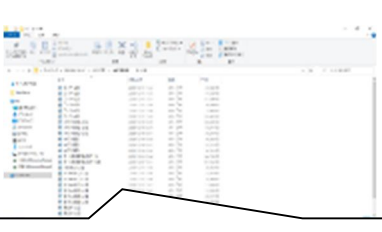
各種目に教員がつき、安全管理をした上で意識するポイントを的確に伝えた。

○体力向上エキスパートティーチャーによる授業



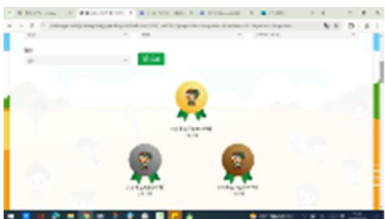
ボール投げと瞬発力系の運動について、専門的なトレーニングを教えてもらえた。

○授業向上に向けた環境整備



体育の指導が苦手な先生でも、指導のイメージがもちやすいようだれでもいつでも見られる環境となっている。

○「とちぎっ子体力雷ジグひろば」を活用



意識が高まり、自主的にチャレンジに取り組む児童が多かった。